

「今こそみんなで考えよう！ これからの品質の力」

お疲れ様です。

いよいよ品質月間、11月です。いつも品質を守ってくれて、本当にありがとうございます！

今年の品質月間のテーマをAIに三行で纏めてもらいました。

AIや国際情勢で世の中が激しく変わり、「仕事がやりにくい」という閉塞感をみんなが感じています。

でも、品質は物事を改善し、スパイラルアップさせるための共通目標であり、そのためのツールは揃っています。

この閉塞感をぶち破るため、「これからの品質の力」をみんなで考え、現場から未来を切り拓きましょう！



1. 業界の風向きが変わったぞ！

最近、自動車業界で大きな変化が起きています。

トヨタのSSA活動で進めてきた「限度緩和」の考え方、つまり「ムダなルールは現場の知恵でなくして、もっと効率良く、品質を上げる」という動きが、ついにホンダ、日産、マツダといった他のメーカーにも広がってきました。

これは「ラッキー！」で終わらせてはいけません。業界全体が「上から言われたから守る」という受け身の姿勢から、「現場が科学的に考えて、自分たちで品質をより確実に確保していく」という新しい段階に入った証拠です。この波に乗るか、沈むか、今が正念場です。

2. 今、私たちの足元で起きていること

一方、私たちの足元では厳しい現実が待っています。

① クレームの基準が厳しい！

直近の海外顧客からのクレームを見てください。まさかの**「外から見えない部分の、輸送中に付いたキズ」までNGと指摘されています。お客様が求める品質のレベルが、私たちが思っている以上に厳しくて困ります。

② 仕事の難易度が上がった！

皆さん感じている通り、世の中でめっきの需要が減っています。これはつまり、私たちはこれまでより**「もっと難しくて、手間がかかる製品」や「新しいお客様の仕事」に、積極的に挑んでいかないと生き残れない、ということです。

3. 「これからの品質の力」で乗り越えろ！

この状況を、誰かのせいにしたり、古びたルールに頼ったりしては、絶対に乗り越えられません。

必要なのは、「統一限度」なんて待たずに、自分たちの手で品質を確実に確保し、管理し続ける、自律的な現場力です！

データで語るプロになろう：「キズがつくのはなぜか？」「本当に必要な管理項目は何か？」を、感覚ではなく、データと科学的な根拠で追求し、根本から問題を解決する。

自律的な品質管理：難しい部品の立ち上げであっても、「私たちが決めた基準で、絶対に品質を確保する！」という強い責任感と覚悟を持つ。

ピンチをチャンスに変える：厳しい課題を乗り越えた経験を、「他社には真似できない、うちだけの競争力」に変えて、会社の未来を築こう！

厳しい情勢ですが、みんなの力を合わせれば必ず乗り越えられます。

この11月、社員一人ひとりが「品質の主演」として、次の三つの問いを徹底的に考え抜こう！

💡 品質を巡る3つの問い

「このルール、何のため？」：今、私たちが守っている手順やルールは、そもそも何という問題を防ぐために作られたものなのか？その本質的な目的をもう一度深く掘り下げてみよう。

「もし破ったら？」：もしこのルールや基準を少しでも破ったら、最終的にお客様の安全や信頼に、どんな致命的な影響が出るのか？最悪の事態を具体的に想像しよう。

「斜め上のクレームは？」：今は問題になっていないけれど、あの海外クレームのように、まさか「外観有効面ではない部分」から、次にどんな予想外のクレームが飛んでくるか？その脅威を先回りして想像し、予防線を張ろう！

この「想像力」と「自律的な問いかけ」こそが、これからの品質の力です。この品質月間を、全員が主演となって活動を推進していくことを期待します。みんなで力を出し切ろう！

ご安全に！